

議 事 録

件 名	第 33 回自殺予防対策委員会
日 時	令和 8 年 6 月 29 日（月）14：00～15：00
場 所	久留米市役所 13 階（1301）会議室
出席者	委 員 内村委員長、大治副委員、熊本委員、井上委員、山下委員、石井委員、古賀委員、永野委員、物部委員、田中委員、吉田委員、関委員、下川委員、倉富委員
	事務局 （保健予防課）野口主幹、上野主査、石井主査、福島 （安全安心推進課）新村補佐、田中
欠 席 者	稲益委員
傍 聴 者	無し
次 第	1. 開会 2. 協議事項 (1) 2025（令和 7）年度取組実績及び 2026（令和 8）年度取組方針（案）について (2) 広報啓発活動について 3. その他 (1) 令和 8 年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案） (2) セーフコミュニティ標語の募集について 4. 閉会
質 疑	1. 開会 ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 2. 協議事項 (1) 2025（令和 7）年度取組実績及び 2026（令和 8）年度取組方針（案）について
委 員 ①	2024 年の自殺者数が 53 人。原因はわかっているのか。
事 務 局	健康問題 44%、経済生活問題 29%、家庭問題 11%となっている。 1 人につき原因動機を 4 つまで計上可能である。自殺に至るには様々な要因があるため、それに留意してみていかなければならない数字と考える。
委 員 長	自殺者数はコロナ禍で増加し、その後減少に転じていたが、再度上昇傾向となっている。重点的な取り組みが必要な対象者への取り組みの充実とのことだが、自殺のリスクが高い若年層、働く世代、高齢者、生活困窮者、女性、自殺未遂者の中で、特に久留米でリスクの高い対象はどの方々か。
事 務 局	40 代、50 代の働く世代。特に男性に多い傾向がある。生活困窮者も多い。
委 員 長	女性もリスクがあるのか。

事 務 局	女性の自殺者数も横ばいで減少しておらず、課題認識は持っている。
委 員 長	最近子どもの自殺の増加が話題となっている。久留米はどうか。
事 務 局	令和 5 年が 4 人、令和 6 年が 2 人だった。 令和 6 年の自殺死亡率をみると久留米が 3.6、全国が 4.1 だった。
委 員 長	産後のうつ病からの自殺が日本では多いが、こども子育てサポートセンターはどう考えているのか。
委 員 ②	当課では、18 歳までの妊娠出産に関する相談等、様々なものを受けている。18 歳未満の子どもが、電話やメールで相談できる「結らいん」という相談窓口がある。相談の中には、「死にたい」と発言する子どももいる。傾聴し、状況を把握したうえで、子どもたちの悩みに寄り添った対応をしている。
委 員 長	メールでの相談は増えているのか。
委 員 ②	減っている。相談の比率としては、電話よりメールが多い傾向にある。電話はハードルが高いという課題認識がある。相談窓口を記載したカードを、夏休み前に小中高生に配布している。今年度より、2 次元コードを入れて、携帯で読み取るだけで相談ができるような仕組みにした。
副 委 員 長	子どもに限らず、若者はメールもハードルが高く、主な連絡手段では LINE を使っている。文章を書くこと自体が苦手な印象がある。メールで発信するより先に AI に相談することをとても心配している。AI はとても危険な媒体になってくると思うが、どう考えているのか。
委 員 ②	我々の窓口相談するよりも、身近な AI に先に相談する可能性はあると考えており、これは今後の課題として認識している。 子どもができるだけ、手軽に相談できるような手法を考えていきたい。
委 員 ①	ゲートキーパーという言葉聞いたことがなかった。民生委員児童委員協議会にも、ゲートキーパーの啓発や研修をするといいのではないかと。毎月 1 回、47 校区で自治会長が集まる定例会長会があるため、自殺の現状や久留米市の取り組みを話してもらおうと広がっていくのではないかと。と思う。
事 務 局	啓発が届いてないということがわかった。周知方法も考えていく。
委 員 長	出前講座では、保健所職員がゲートキーパーの研修をするのか。
事 務 局	地域や企業、市民団体等から依頼があったところに職員が出向き研修をしている。

委 員 長	他の保健所での会議の場等では、ゲートキーパーのパンフレットが置いてある。久留米市もこのような会議の場を利用して啓発してはどうか。 市民意識調査で、「ゲートキーパーを知っていますか」という項目があったが、どれくらい周知されているのか。
事 務 局	令和 7 年度の調査では、ゲートキーパーの認知度が約 12%。ここ数年大体同じぐらいで推移しており、伸びていない。
委 員 長	あらゆる機会をとらえて啓発するようお願いしたい。
委 員 ③	昨年から、AI に相談後、生活自立支援センターに来所する人が増えている。若者が相談したい内容が、きちんと AI に伝わっているのかと思う。相談に来られて私達が話を聞いてから、初めて状況が分かることもある。面談中に「死にたい」と発言されることもあるが、そういう時には、保健所につないで一緒に話を聞いたり、自宅を訪問している。 AI が誤ったことを伝えるのは困るが、AI から相談窓口に繋がることはとても良いことだと思っている。
委 員 ④	ゲートキーパーという単語自体は聞いたことがあるが、実際に会ったことがない。 広報をもっとということだが、広報して浸透させていくのは非常に難しく、大きな課題である。ゲートキーパーは認定されているものなのか。
事 務 局	特に認定されるものではなく、我々の研修を聞いてくださった方が、ゲートキーパーの意識をもって周囲の方に対応してくださるということ。
委 員 ④	ゲートキーパーの意識を持つとは、ゲートキーパーになって、実際様子がおかしい人を見つけて、つなげるところまで話をしているのか。
事 務 局	まずは話を聞いて、必要な機関につなげる。つなぐ先が分からなければまずは保健所につなぐ、経済困窮があれば生活自立支援センターの方につなぐ等、そのようなところも併せて研修をしている。
委 員 長	ちょっと様子が違うという方に気づいて声をかけ、話を聞いて関係機関につなぐというのが、ゲートキーパーの役割。十何年前から全国で啓発されている。このゲートキーパーの取組は、一般の方から始まったもの。警察にも十分伝わっていないということで、啓発自体がまだまだ不十分だと実感した。
委 員 ④	警察が業務として対応する方は、今まさに死のうとしている方や、ネット上に匿名で自殺願望を書き込んだ方。家族やかかりつけの病院があれば、そちらにつないでいる。しかし、タイミングが合わず医療機関側が受け入れを出来ない時や、身寄りがない方もいる。その際、そういった方々をつなげられる施設等があれば教えてほ

	しい。
副 委 員 長	土日夜間でも医療機関はどこか開いているため、医療機関に連絡してもらえば、相談にのれるチャンスは必ずある。
委 員 長	心の相談電話という電話もある。電話相談もひとつの手段ではないか。
委 員 ④	自殺を試みた人を 1 人で自宅に帰すことが心配。きちんと治療やカウンセリングを受けたり、身元を引き受けてくれる方に、その後の様子をみてもらいたい。精神科病院は土日も受け入れができるのか。
副 委 員 長	精神科でなくても病院を受診すれば、その医師の判断で、精神科に相談が回ってくると思う。
委 員 長	受診が必要であれば、精神科病院は当番で 365 日 24 時間対応しているため、診療が必要であれば対応ができる。
	<u>(2) 広報啓発活動について</u>
副 委 員 長	市のインスタグラムは全体的に地味に感じる。若者を引き付けるようなもの、インパクトのあるものを出さないと難しい。
安全安心推進課	見ていただけるような動画を工夫していきたい。
委 員 ⑤	インスタグラムについて、ページビューは把握しているか。 労政課では、令和 7 年度から費用をかけ SNS 広告を見てもらう方法をとっている。そうしたところ、インスタにあげている動画が 1 本あたり 5 万回程度再生されている。予算をかけて発信する方法もあるかと思う。
安全安心推進課	ご意見いただいた手法も検討したい。
	<u>3. その他</u>
	(1) 令和 8 年度セーフコミュニティ会議等スケジュール案について
副 委 員 長	セーフコミュニティの認証はどうなるのか。
安全安心推進課	現在 3 回の認証をとっている。 4 回目を取得する場合、令和 10 年度になるが、この認証については検討している段階。昨年の委員アンケート結果や PR 効果、費用等を総合的に検討し、本年度中に方向性を決め、お知らせする予定。

委 員 ① 安全安心推進課	(2) セーフコミュニティ標語の募集について 民児協とはこういったやりとりをしているのか。 各校区にチラシの配布をしている。事務局から民児協に直接の依頼はしていなかった。広く周知したいので、今後周知方法を検討したい。 <u>4. 閉会</u>
-----------------------------	--